

国際会議から 鉄道における状態監視に関する国際会議

この会議は、鉄道の状態監視 (Condition Monitoring) に関する国際会議で、過去の5回はイギリス国内で開催されてきました。第6回目にあたる今回の会議も、イギリス中西部の工業都市バーミンガムで開催され、約10か国から約120人の参加がありました。3件の基調講演のほか、施設や車両などの各分野から、全てオーラルセッションで計32件の論文発表がありました。

鉄道に関する設備を効率的に維持・管理するためには、その状態を適切に把握・診断することが大切であり、本会



田中博文
軌道技術研究部
軌道管理研究室
副主任研究員

議は、この鉄道に関する状態監視技術に特化したものです。

今回、著者は、軌道のセッションで「効率的なレール波状摩耗のモニタリング手法」に関する発表を行い、波状摩耗検出のためのデータ処理手法などについての質問がありました。

会場は、バーミンガム市内から大学の最寄り駅まで電車で乗り換え無しに行くことができますが、大学の構内が広く会場までは駅から徒歩で20分程度でした。イギリス特有の曇り空の中ではありませんでしたが、綺麗に整備されたキャンパス内を散策しながらの道りは清々しさがありました。



Birmingham New Street駅の複雑な配線



会場(バーミンガム大学)の時計塔

正式名称：The 6th IET Conference on Railway Condition Monitoring 2014
 開催国：イギリス(バーミンガム)
 期間：2014/9/17-18
 主催：The Institution of Engineering and Technology (IET)
 開催頻度：3～4年に1回
 次回開催予定：2017年もしくは2018年(開催国未定)
 ホームページURL：<http://conferences.theiet.org/rcm/index.cfm>